

機関リポジトリ概要

機関リポジトリとは

(Institutional Repository : IR)

2006.10.30 HARP第1回ミーティング

お話しすること

1. 機関リポジトリ概説
 - 定義・ねらい・背景・特質
2. 海外の動向
3. 日本の動向
 - NII機関リポジトリ構築支援事業

定義

定義

「大学等の学術機関内で生産された、さまざまな学術情報を収集、蓄積、配信することを目的とした、インターネット上のサーバ」

➤ **クロウ(Raym Crow)**によれば

「単独あるいは複数の大学コミュニティの知的生産物を捕捉し、保存するデジタル・コレクション」

生産者は学術機関の構成員。コンテンツは学術的価値を有するもの。累積的かつ恒久的に維持し、相互運用性とオープン・アクセスの保証。

➤ **リンチ(Clifford A. Lynch)**によれば

「大学とその構成員が創造したデジタル資料の管理や発信を行うために、大学がそのコミュニティの構成員に提供する一連のサービス」

背景

—学術コミュニケーションの危機—

学術雑誌価格の高騰 →

購読中止

読み手としての研究者

- ・必要な研究資源(ジャーナル)が利用できない
- ・自分が書いた論文を自大学で見られない! ?



書き手としての研究者

せっかく論文を書いても
多くの人に読んでももらえない
(研究インパクトの低下)

大学として行動を起こす!

無料オンライン公開
(オープンアクセス化)

機関リポジトリ構築

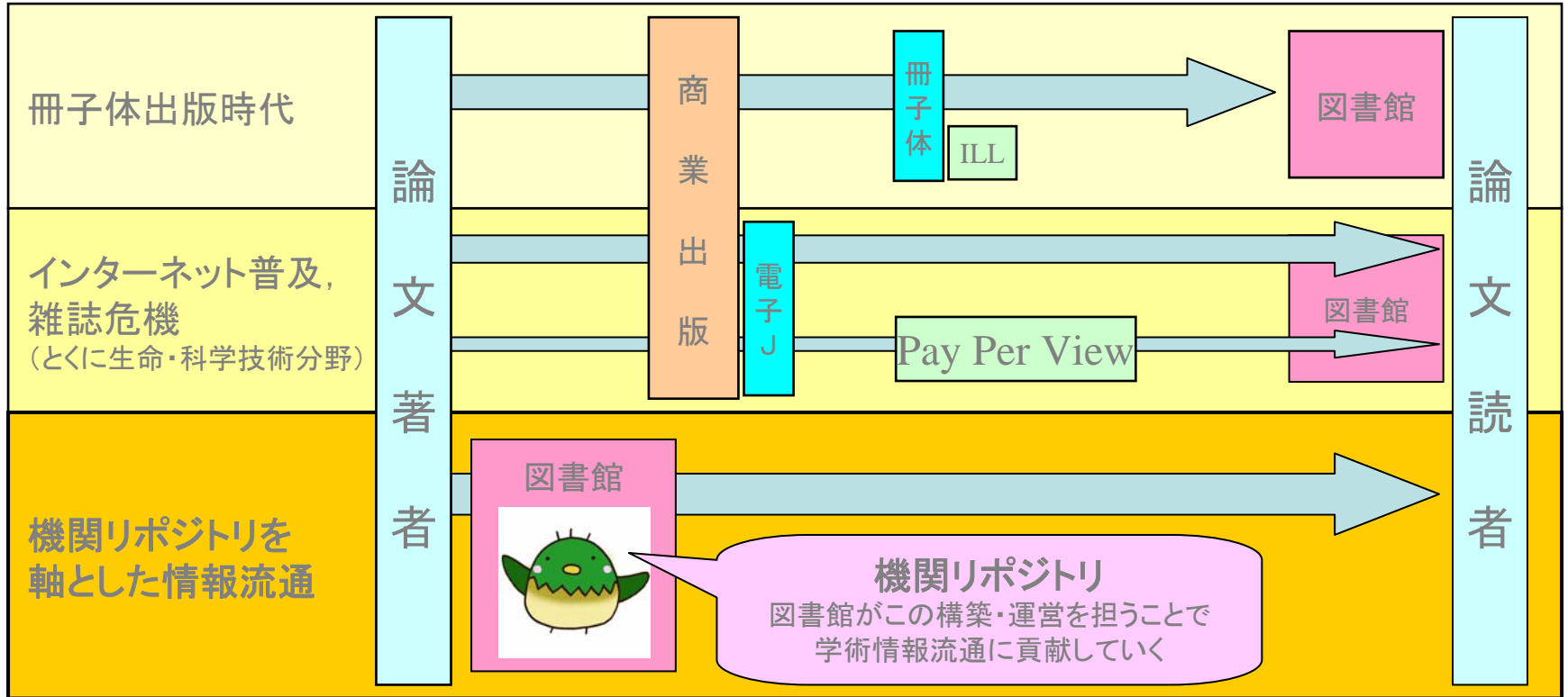
ねらい

- オープンアクセス(無料公開)による読者獲得
研究成果の可視性(visibility)向上 & 流通拡大
研究インパクト回復～維持～向上
 - 機関の研究活動成果の固定と保存
 - 研究機関としての知名度向上
 - 教育・研究活動に係る社会への説明責任の履行
 - 学術コミュニケーションへの積極寄与による図書館の存在感向上
- などなど…………。

特質

- 学術コミュニケーション振興＝研究者支援こそが第一義
- 研究者による主体的蓄積＝セルフアーカイブ(SA)
 - SAはちょっとやさそつでは機能しない
- 研究者のみならず、大学や図書館にも副次的メリット有り
 - 知名度・存在感向上。実感するのは難しい。
- コンテンツ収集方針は各機関で違ってよい。
 - Green論文(学術雑誌論文)主体が理想。
 - しかし現実はともかく最初は数稼ぎ。
 - 広大は「広大でしか集められない」コンテンツを中心に、なんでも。
- メタデータ流布のために、OAI-PMHに準拠する。
 - Googleにクローラされる方がよほど流布する。

なぜ図書館が



※結局、従来果たして来た役割の延長線上にある

つまり機関リポジトリとは

- 自機関の教育研究成果を収集・蓄積・保存し
- 一次情報を
 - 書誌情報だけではだめ
- 無償で
 - 利用に課金しない
- 世界へ発信する
 - 限られた範囲だけではだめ
- 機関の
 - 決して図書館だけのものではありません

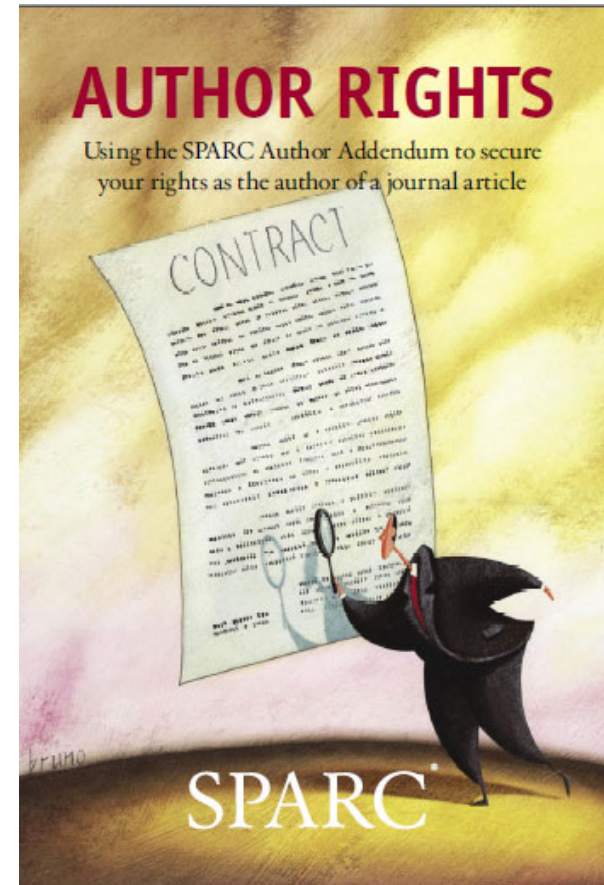
インターネット上の
電子書庫

世界のリポジトリ



海外の動向

- SPARC、SPARC/Europe
学術コミュニケーションの
変革活動
- プロジェクトRoMEO
学術雑誌セルフアーカイビ
ング許諾 (Green) : 94%



SPARC Author Rights

http://wwwsoc.nii.ac.jp/janul/j/projects/isc/sparc/author_rights/SPARC_Author_Addendum.html

SHERPA ROMEO

<http://www.sherpa.ac.uk/romeo.php>



日本のリポジトリ

北海道大学: HUSCAP

筑波大学: つくばリポジトリ(Tulips-R)

東京大学: UT Repository

東京学芸大学: 東京学芸大学リポジトリ(試験公開中)

千葉大学: CURATOR

名古屋大学: Nagoya Repository/ 名古屋大学学術ナレッジ・ファクトリー

金沢大学: 金沢大学学術情報リポジトリKURA

京都大学: 京都大学学術情報リポジトリ

大阪大学: 大阪大学機関リポジトリ(試行版)

神戸大学: 神戸大学 Kernel

岡山大学: eScholarship@OU-DIR / DSpace@OUDIR

広島大学: 広島大学学術情報リポジトリ(HIR)

山口大学: YUNOCA(試験公開中)

九州大学: 九州大学学術情報リポジトリ(QIR)

長崎大学: 長崎大学 学術研究成果リポジトリ(試験公開中)

熊本大学: 熊本大学 学術リポジトリ

慶應義塾大学: KeiO Academic Resource Archive (KOARA)(試験公開中)

早稲田大学: DSpace at Waseda University

立命館アジア太平洋大学: DSpace@APU(テスト運用中)

沖縄国際大学: 学術成果リポジトリ

日本貿易振興機構アジア経済研究所: 学術研究リポジトリ

**2006年10月現在
21機関で公開中**



NII 機関リポジトリ構築支援事業

➤ 平成16年度

IRP (学術機関リポジトリ構築ソフトウェア実装実験プロジェクト)

- <http://www.nii.ac.jp/metadata/irp/>
- 北大・千葉大・東大・東学大・名大・九大

➤ 平成17年度

CSI(最先端学術情報基盤) 事業委託事業

- <http://www.nii.ac.jp/irp/>
- 北大・東北大・筑波大・千葉大・東大・東工大・東学大・名大
金沢大・京大・阪大・岡大・広大・山大・九大・熊大・長崎大・
慶應・早稲田 (19大学)

平成17年度成果による分類

- **学内体制**
 - ボトムアップ型 図書館を中心に啓発活動(北大・千葉大他)
 - トップダウン型 全学的な意思決定が先行(東大・広大他)
- **運用体制**
 - 兼務型・専任型(広大・金沢大)・通常業務型(慶応義塾)
- **システム構築**
 - 自力型(北大・名大他)・他力型(製品購入・導入支援)
- **コンテンツ**
 - 学術論文型 学術コミュニケーションの変革を意図(北大)
 - 研究成果型 大学からの情報発信機能向上を意図(千葉大他)
 - 電子図書館型 あらゆる電子的学術資料を収集(慶応義塾)

-広大は研究成果を前面に。でも全部。電子図書館は入れ物として-

平成18年度CSI事業委託事業

- 公募の採用。
- 57大学が採択。
- 2つの事業領域
 1. 機関リポジトリの構築と運用
 2. 先端的な研究・開発

先端的研究開発テーマ（抜粋）

- リンクリゾルバ対応システムの開発
- 著作権ポリシー共有機能
- 業績データベースとの連携
- 電子出版システム
- 機関リポジトリコミュニティの活性化
- サブジェクトリポジトリの構築
 - 教育系
 - 平和学
 - 数学文献アーカイブ

ほか22テーマ

国立大学図書館協議会 デジタルコンテンツプロジェクト

- 著作権の取り扱いに関するアンケート

<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/ir/>

2006年1月 国内の学協会に、
IR登録に関する著作権ポリシーを問い合わせ。
登録可 回答 710件中 67件

18年度 CSI領域2(筑波大主担当)で事業継続



用語集

➤ SA(セルフアーカイブ)

著者が著作権を行使し、自著を公開すること。主体的蓄積。機関リポジトリへの登録もSA。

➤ Green Journal

出版元(出版社・学協会)が一定の条件の下にSAを認めている雑誌。(ほとんどの条件:著者原稿ならばOK)
プロジェクトROMEIOによると、現在、海外主要出版元の94%。

➤ OAI サービスプロバイダ

OAI-PMHに準拠したデータをハーベストし、検索可能とするプロバイダ。

-OAIster(Michigan Univ.)

-JuNii (国立情報学研究所)

